



天文教育普及研究会
これまでの20年とこれからの20年

水野孝雄(東京学芸大学)

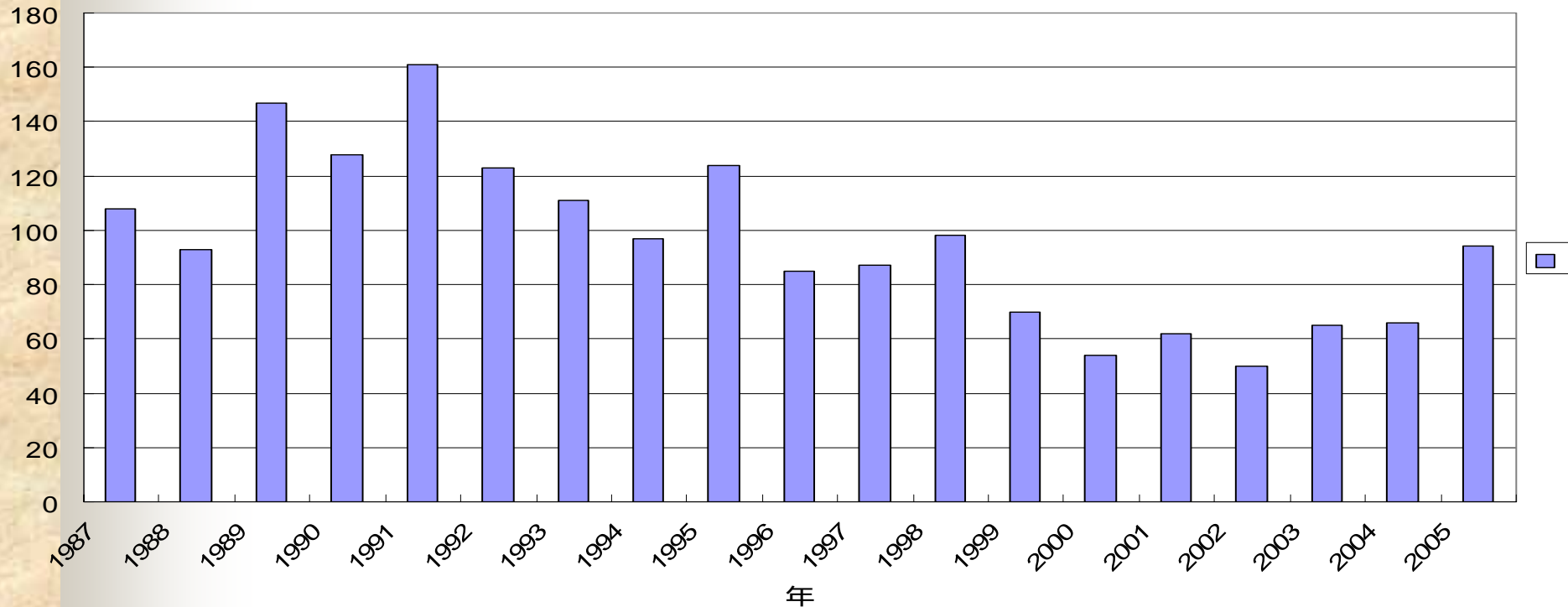
2005年11月20日

これまでの20年

1. 主な活動 (これまでに全支部で開催) (不参加者へも)

- (1) 天文教育研究会: 会員にとって重要な情報交換の場、集録による情報提供
- ・名称問題: 「普及」を入れるか。本会の対象をどこに置くかと関連。
 - ・「なぜ天文は必要か」等のテーマ。

天文教育研究会(年会)参加者数



長野

駿台学園

西はりま

愛知

神奈川

福島

岡山

西はりま

新潟

神奈川

鳥取

和歌山

群馬

福岡

北海道

香川

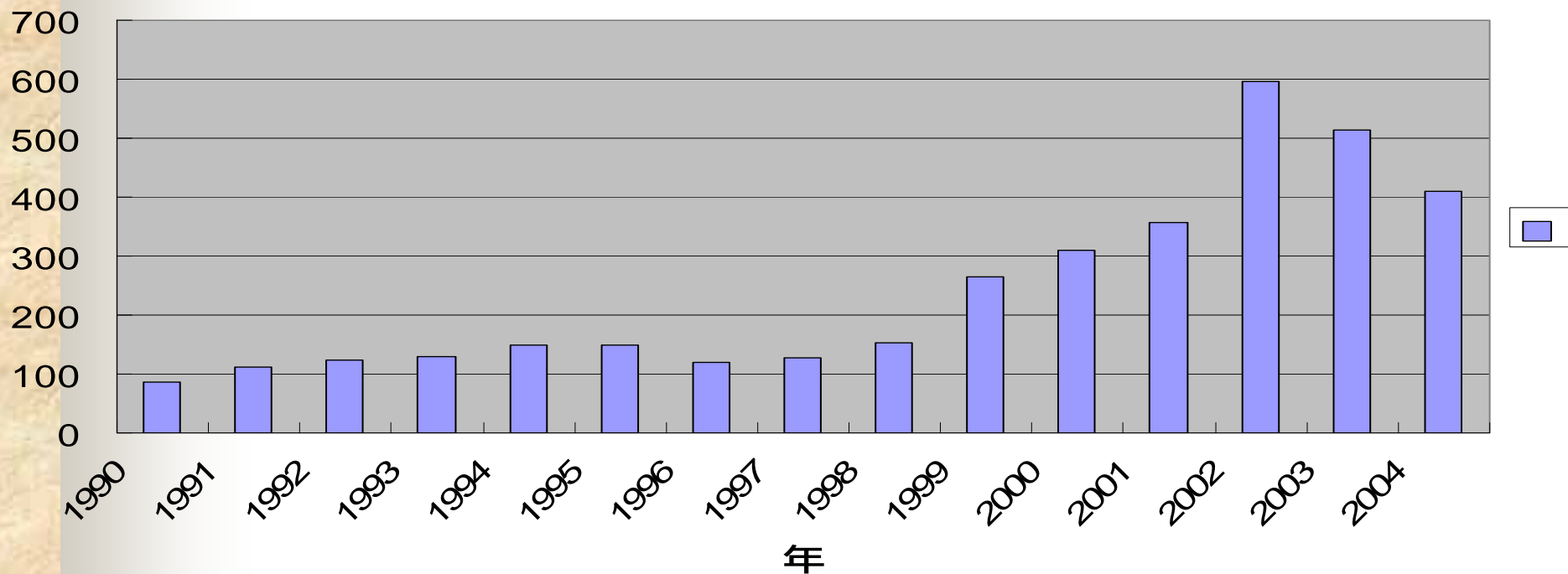
長野

西はりま

(2) 支部研究集会：年會に出席できない人も、支部でのつながり、サポートし合うことは重要
各支部で年1回以上開催。

(3) 会報(回報)：会員にとって重要な情報源であり、発表の場

会報(回報)年間ページ数



会長：磯部秀三 水野孝雄
編集長：高橋典嗣 装丁一新

横尾武夫
尾久土正己

第3種郵便 沢武文
沢武文 栗野諭美 作花一志

(4) 天文学会への働きかけ

- ・ 研究者も教育・普及に関心を！ 天文教育フォーラムを共催
(1991年水戸で初回)
- ・ 天文学会年会発表に「天文教育」分野を置くようになった。

(5) 教育課程・学習指導要領改訂への働きかけ

- ・ 要望書等を文部省(文部科学省)等に提出
- ・ WG活動(学習指導要領、天文教育スタンダード)

(6) 出版物

- ・ 年会集録、会報(回報)
- ・ 「宇宙をみせて」 観望会WG
- ・ 「教育のためのプラネタリウム」 プラネタリウムWG
- ・ 「天文教具」 天文学会での展示
- ・ 「宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学」 沢会長

2. 具体的な内容

2. 具体的な内容(年代順)

(1) 1987年8月: 第一回天文教育研究会開催(駿台学園高校北軽井沢「一心荘」)

参加者108名、テーマ「小・中・高・大および社会教育における天文教育の問題点」

・IAUによる天文教育コロキウムの1988年開催に呼応して、日本でも研究会を開催して討論。

・小・中・高・大および社会教育の天文教育者が一堂に会して、情報交換、連携。

(2) 1988年8月: 第二回天文教育研究会開催(同じく「一心荘」)

参加者93名、テーマ「天文教育研究会のあり方」

・IAU天文教育コロキウムの報告

(3) 1989年8月: 第三回天文教育研究会開催(同じく「一心荘」)

参加者147名、テーマ「天文教育・普及における問題点とその改善策」

・1989年8月7日: 「天文教育普及研究会」発足

世話人代表・磯部秀三

・名称問題(“普及”を入れるかどうかの熱い討論)

・会則承認(より組織化された会が設立されるまでの前段階的な組織)

(4) 1990年7・8月: 第四回天文教育研究会開催(兵庫県立西はりま天文台公園)

参加者128名、テーマ「私がめざす天文教育」 オープン(5月)間もない状態

・秋季年会で、天文学会の顕彰制度に関する意見交換会

(5) 1991年8月: 第五回天文教育研究会開催(愛知県刈谷勤労福祉会館)

(6) 1992年8月: 第六回天文教育研究会開催(神奈川県・相模セミナーハウス)
参加者123名、テーマ「なぜ天文が必要か」

- ・我々はどのようなところに、どのようにして存在するようになったか。
- ・我々の「時間的空間的位置づけ」を研究し、学び、教育・普及する。

(7) 1993年8月: 第七回天文教育研究会開催(福島県・土湯温泉「観山荘」)
参加者111名、テーマ「天文教育に求められるもの - 今まで欠けていたものは何か - 」

- ・東北で初めての開催。
- ・1993年2月: 関東地区研究集会の茶話会で「天文雑誌を斬る」
- ・1993年5月: 天文教育フォーラムが天文学会と共催となる。
- ・1993年7月: 選挙により会長に磯部秀三氏。
- ・1993年9月: 天文学会に天文教育普及に関する委員会の設置を提言(天文月報)。
- ・1993年12月: 磯部会長、辞任表明 会長代行に水野氏。

(8) 1994年8月: 第八回天文教育研究会(JA鴨方・遥照山簡易保険保養センター・美星町民会館)
参加者97名、テーマ「学校教育における天文教育」「天文教育とアマチュア」

- ・会員数が500名を超え、会則を大幅に改訂。
- ・改訂された学習指導要領に対する討論 1995年2月に文部省に要望書を提出。
- ・1994年7月: 会長に水野孝雄氏。
- ・1994年天文学会秋季年会から学会発表に「天文教育」分野が設けられた。

(9) 1995年8月: 第九回天文教育研究会(兵庫県立西はりま天文公園)
参加者124名、テーマ「宇宙を見る目を育てる - 天文教育実践の今 - 」

- ・サマータイム導入の動きに対して討論 9月に議員連盟宛に要望書を提出。

(10) 1996年8月:第十回天文教育研究会(新潟県妙高高原町「かんぼの宿妙高」、
妙高村「国立妙高少年自然の家」)

参加者85名、テーマ「宇宙を身近に感じられるために」

- ・次の学習指導要領改訂に向けた発表。
- ・本会のメーリングリスト(Tenkyo ML)を開設。

(11) 1997年8月:第十一回天文教育研究会(神奈川県・相模セミナーハウス)

参加者87名、テーマ「宇宙をみせる - 学校教育・社会教育・一般普及との連携 - 」

- ・3月:本会のホームページを開設。
- ・文部省に「今後の教育課程の在り方について」の意見書を提出。
- ・8月(IAU総会開催中):天文教育国際フォーラム開催(約150名参加)

(12) 1998年8月:第十二回天文教育研究会(鳥取県・さじアストロパーク・佐治天文台)

参加者98名、テーマ「天文教育普及の問題点 - 現場におけるさまざまなギャップ」

- ・1月:文部省に「教育課程審議会の『中間まとめ』に対する意見」を提出。
- ・7月:会長に横尾武夫氏。
- ・8月:文部省に「教育課程の基準の改善に関する要望」を提出。
- ・9月号から機関誌として位置づけ、会報「天文教育」という名称にし、年6回発行。

(13) 1999年7月:第十三回天文教育研究会(和歌山県・かわべ天文公園、セミナー未来塾)

参加者70名、テーマ「地域に根ざした天文教育 - 半径xkmの天文教育と普及」

- ・4月:サマータイム連絡協議会に意見を提出。

(14) 2000年8月:第十四回天文教育研究会(群馬県立北毛青年の家)

参加者54名、テーマ「総合的な学習の時間と天文」

(15) 2001年8月:第十五回天文教育研究会(福岡県・国立夜須高原青年自然の家)
参加者62名、テーマ「天文学・教育・社会 - 21世紀における天文教育の飛躍 - 」

・7月:会報が第3種郵便に認可 郵送料が格安に。

(16) 2002年8月:第十六回天文教育研究会(北海道・グリーンピア大沼)

参加者50名、テーマ「羽ばたけ天文教育 - 学校教育と社会教育の新たな接点を求めて」

・7月:会長に沢武文氏。

(17) 2003年7月:第十七回天文教育研究会(香川県仁尾町立国民宿舎つたじま荘)

参加者65名、テーマ「天文教育が未来を開く - IT時代の『リアル』を求めて」

・4月:サンシャインプラネタリウム閉館に関する要望書を東京都豊島区長に提出。

(18) 2004年8月:第十八回天文教育研究会(名古屋市民御岳休暇村)

参加者66名、テーマ「広義の天文教育における多様性をさぐる - 私の信念・あなた理想」

・8月:中教審会長に「初等中等教育における天文分野の学習についての提言」を提出。

(19) 2005年7・8月:第十九回天文教育研究会(兵庫県立西はりま天文公園)

参加者94名、テーマ「新しい天文のコミュニティ - その創造に向けて」

2mなゆた望遠鏡完成後



これからの20年

1. これからの日本

少子・高齢化

民営化・地方への移譲

(国の赤字減らし)

促進

2. 学校教育関係

(1) 教育課程・

学習指導要領の改訂

今後20年間に2回ある。

・現在進行中(2010年頃実施)の改訂作業への働きかけ

・さらに、その次(2020年頃実施)への対応

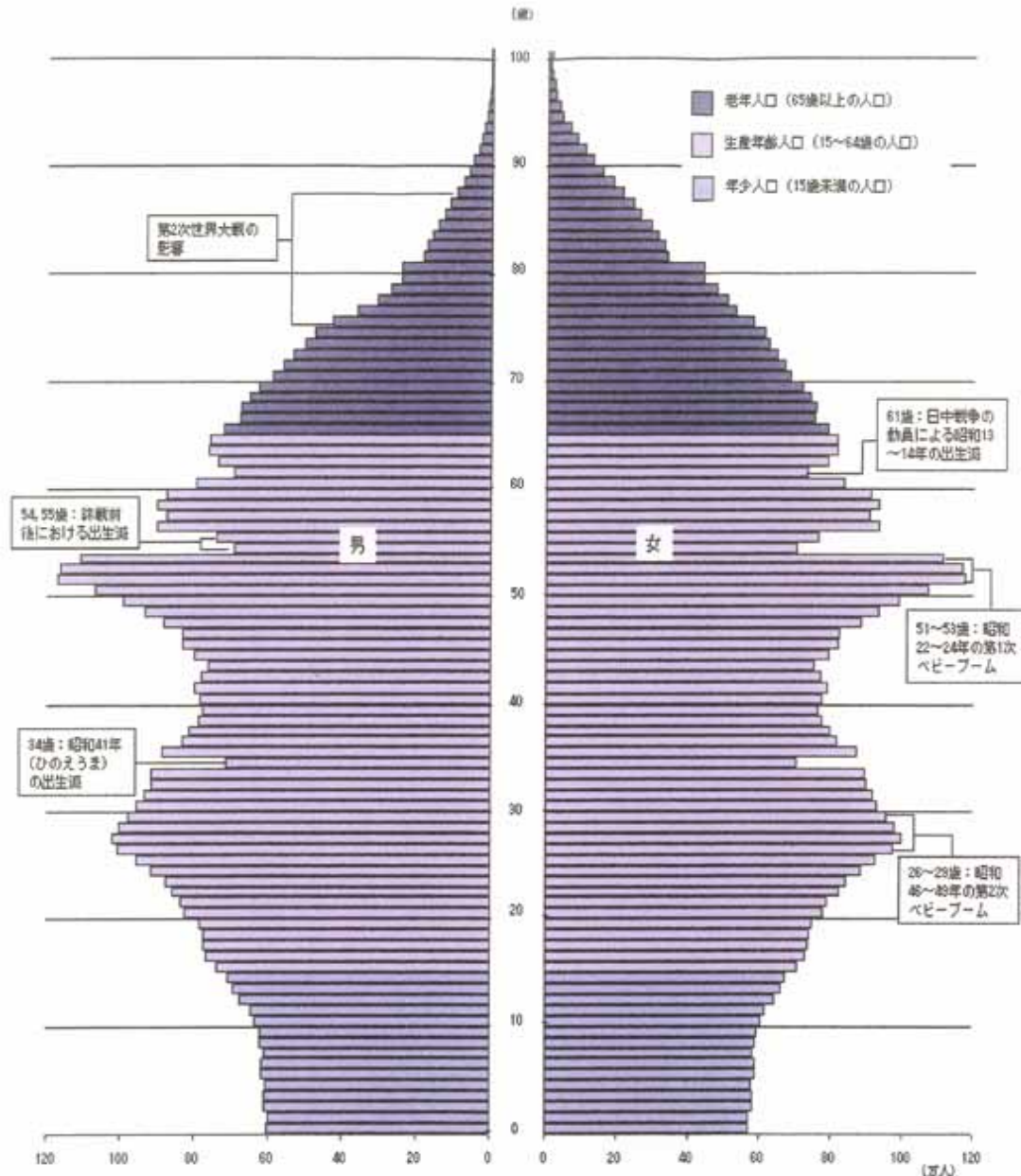


図11 わが国の人口ピラミッド

[平成12年(2000年)10月1日現在、総務省統計局]

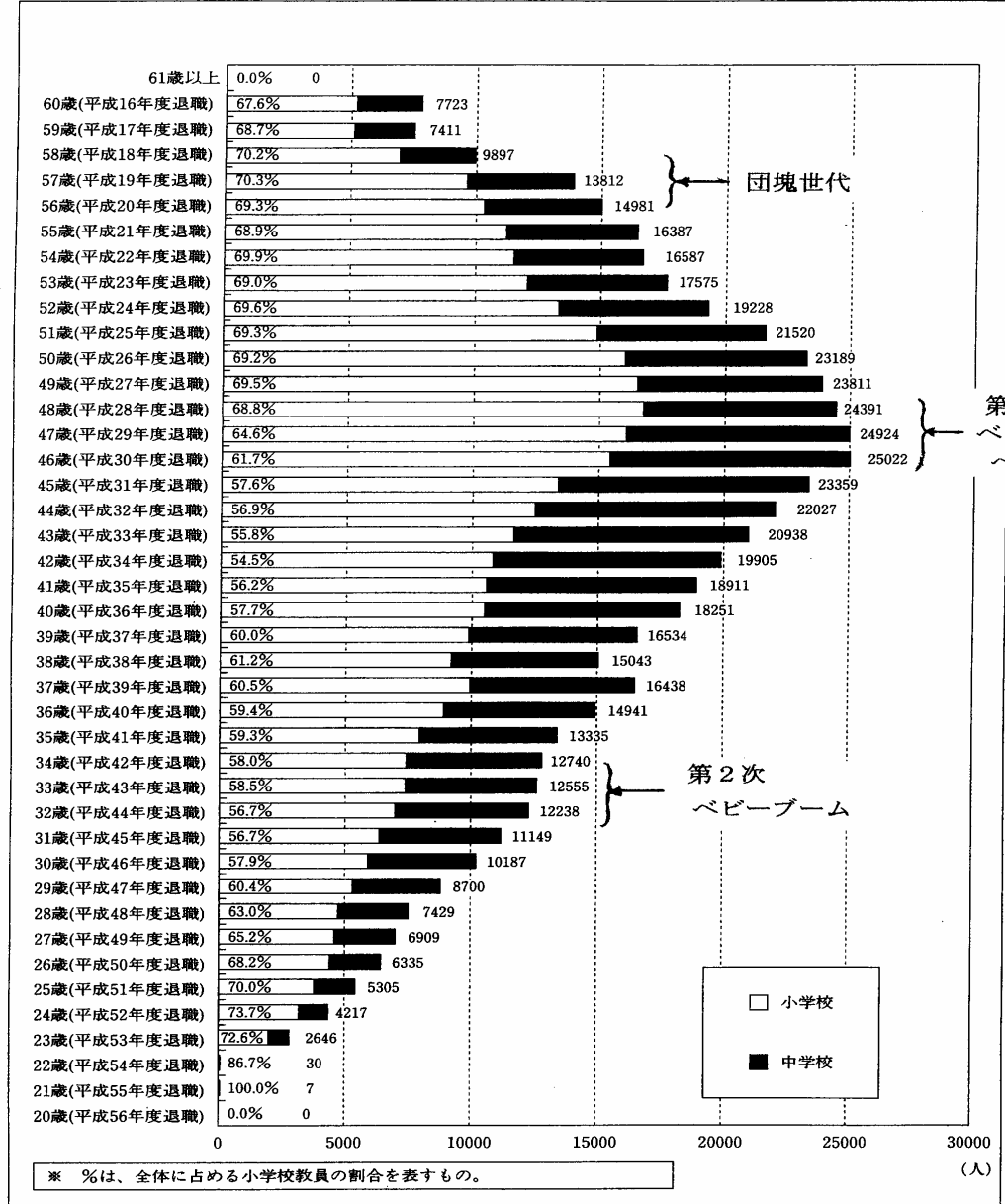
(2) 少子化により、 大学全入時代・大衆化

- ・ 学生の質の低下
- ・ 養成される教員の質も低下

(東京教師養成塾、
教職大学院)

- ・ 現在、小学校教員の90%は文系教員で、支援すべき理科専科教員は約10校のうち1校に1人しかいない

本会として文系教員への支援策が必要！



[文部科学省初等中等教育局財務課調べ]

<合計> 566,587人 43.8歳
 <小学校> 358,514人 44.3歳
 <中学校> 208,073人 43.1歳

図 12 年齢別教員数

[平成 17 年 (2005 年) 3 月 31 日現在、文部科学省初等中等教育局財務課調べ]

(3) ベテラン教員の退職

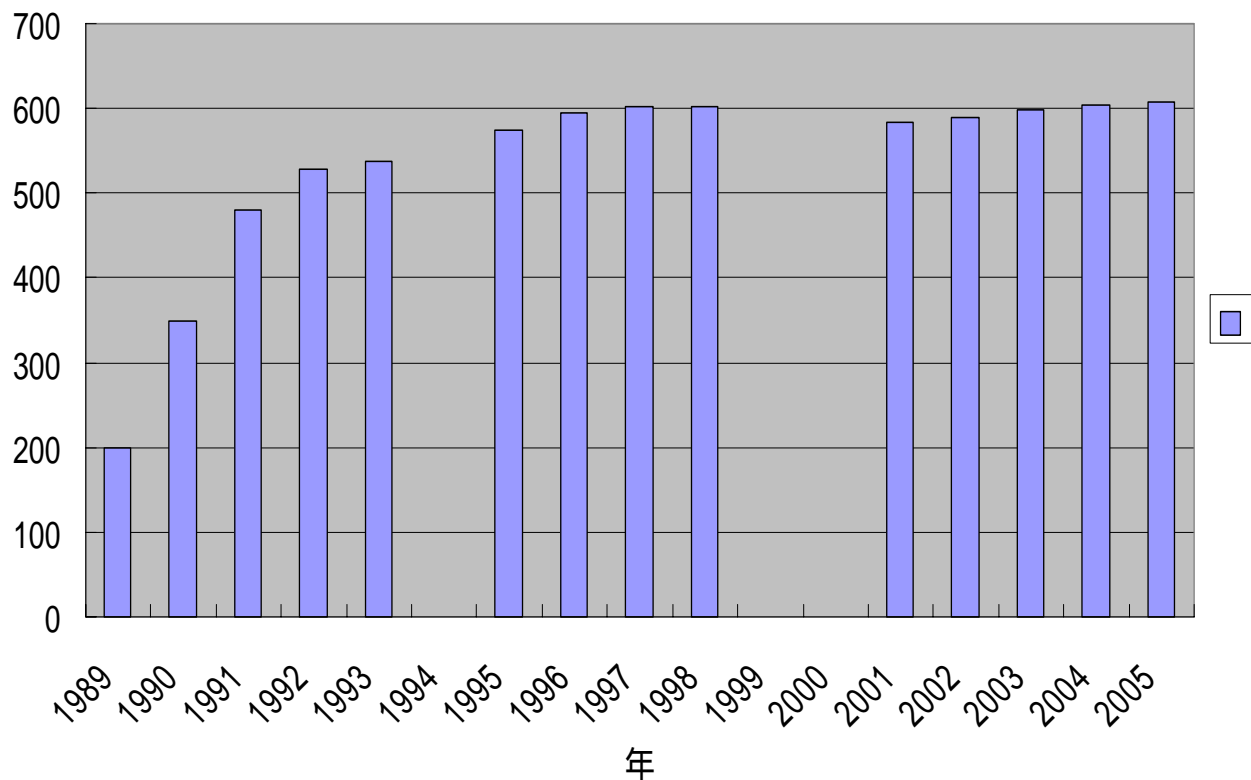
- すでに教員の退職者が多くなっているが、教員数の最も多い40代教員(第2次ベビーブーム対応)が退職を始める10年後はもっと深刻である。

今から教員の
ノウハウを若い
教員に引き継ぐ
(実践例、工夫例等)

本会としても、
その“引継ぎ”を
支援し、
文系教員に働き
かけ(支部集会
への誘い)

[文系教員も入りたい
研究会に!]

天文教育普及研究会会員数



3. 社会教育

(1) 国から地方への権限移譲(義務教育さえも)

- ・ 経済力のない地域に格差
- ・ 地域教育力の重要性が高まる
学校と地域との連携

[退職教員はじめ、退職者の能力を活用]

社会教育・生涯学習施設からの支援必要
本会の役割重要

(2) 民営化

- ・ “効率主義・成果主義”の蔓延
- ・ 単に経費が減れば良いのではない。
中身(質)が低下しないようにする必要あり。

[指定管理者制度の導入に要注意]